

金城ヨシヒデだより



ごあいさつ

初夏の風薫る街角で、ブーゲンビレアやハイビスカスの花が映える時節、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃のご厚情に対し心から感謝申し上げます。

厚生労働省の人口動態統計の2005年推計では、予測より1年早く人口減少社会に入ったと言われております。

公明党が強力に推進する少子化対策の一つである児童手当制度の拡充で改正児童手当法が今通常国会で可決、成立し、今年4月1日に施行されました。これにより支給対象を現行の「小学3年生修了前まで」から「小学6年生修了前まで」に拡大されました。所得制限も大幅に見直され対象児童のいる世帯の90%、約1310万人に上ります。

あわせて今年10月からは、出産育児一時金が現行の30万円から35万円に増額されることと保育所と幼稚園の両方の機能を併せ持つ「認定子ども園」（幼保一元化）の創設も予定されております。子どもは未来と社会の宝との認識の下、子育て支援策のさらなる充実に向けて全力で取り組んでまいります。どうか今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

議会報告

第142回名護市定例会(3月定例会)は、平成18年3月1日から3月23日までの会期で行われました。平成18年度名護市一般会計予算案を含む、市長提出議案50件、報告3件、同意1件、意見書案1件、継続審査議案を含む陳情27件が提出され審議されました。審査の結果につきましては、「なご市議会だより」第56号(6月初め配布)の議案処理結果一覧をご覧ください。

3月定例会一般質問から

要旨

ここでは、今定例会でのヨシヒデの一般質問の要旨をご報告いたします。

一、子育て支援について

質問(1) 北部地域における救急医療体制についてお伺いします。

ア、産婦人科の医師確保の見通しについて

答弁 3月現在、まだ再開のめどは立っていない状況にございます。

イ、小児救急医療体制の現状と課題について

答弁 北部地区医師会病院では昨年4月から7歳以上の小児救急を17時から24時まで初期救急を受け付けております。県立北部病院では24時間体制で診療しておりますが、5名の医師でかなり重い負担だと聞いております。

質問(2) 乳幼児医療費助成の対象年齢引き上げと現物給付についてお伺いします。

答弁 乳幼児医療費助成の対象年齢引き上げについては、財政や母子家庭の医療費助成との兼ね合いがあり、予算と調整しながら検討させていただきたいと思っております。医療費の現物給付についてはいろいろ縛り(国民健康保険に対する国庫負担金の減額)があり実現にはまだまだ厳しい状況であります。

質問(3) 乳幼児健康支援一時預かり事業(病後児保育)についてお伺いします。

ア、取り組み状況と課題について

答弁 2月現在で利用登録者が88名。利用した児童数が述べ130人という実績でございます。

イ、初診料助成について

答弁 子どもの健康状態を把握する上での医療行為のために初診料の負担がございます。現在のところ助成については厳しい状況であります。

質問(4) 市営住宅への子育て世帯の優先入居についてお伺いします。

答弁 住宅に困窮する子育て世帯に対し子育てに適する住宅を提供することは、次の世代を担う子どもたちを育成するとともに、子育て中の家庭に対する支援要素として大きな比重を持つものと考えております。優先的選考の取り扱いに関する方針を福祉との連携を図りながら今後見直しについて検討していきたいと考えております。

質問(5) ファミリーサポート事業の取り組み状況と課題についてお伺いします。

答弁 本市のファミリーサポートセンターは設置して一年が経過いたしました。3月現在「おねがい会員」243名、「まかせて会員」53名、「どちらも会員」30名となっております。直近の利用状況は、一月が70件、二月が71件となっております。課題であった障害児サポートについては、障害を持った子どもの親同士の活動が中心に行われてきましたが、施設の作業療法士や言語聴覚士、理学療法士の方々の積極的な加入によって、「まかせて会員」として7人登録することが(うらなへ)

(1面からつづく)

できました。今後さらに充実させてまいります。

質問(6)「子どもの家」の取り組み状況と課題についてお伺いします。

答弁 放課後の子どもたちが遊んだり勉強したり安心して活動できる居場所づくりとして、また、働く親の支援をするため、公民館や団地の集会所等13カ所にサポーターを配備しております。課題として「子どもの家」のない日の過ごし方がありますが、地域の方々の理解と協力を求めていきたいと思っています。

質問(7)子育てと仕事の両立支援についてお伺いします。

答弁 従業員100人以下の中小企業を対象に、育児休業を取得し職場復帰した際に100万円、2人目に60万円を事業主に支給する助成金制度については、周知、広報に努めてまいります。

質問(8)ブックスタート事業についてお伺いします。

答弁 赤ちゃん絵本を紹介するパンフレットなどを出生届けの際や乳幼児健診時、母子手帳の申請時等の機会を捉えて手渡していきたいと思っております。

二、公共施設の管理運営について

質問(1)博物館、児童センター、中央図書館など本市の公共施設は、月曜日が休館日となっていて、祝祭日が月曜日(ハッピーマンデー)にあたる日は開館してほしいとの要望がありますが対応方についてお伺いします。

答弁 児童センターは今後開けてまいります。図書館と博物館については、図書館司書、学芸員などの専門職の対応が必要になってきますので、もう少しばらばら検討させていただきたいと思っております。尚、平成17年度からは文化の日を開館したところ利用者が非常に多い状況がありました。

三、公共交通システムについて

質問(1)公共交通システムの実現にむけての取り組みについてお伺いします。

答弁 公共交通のあり方については、名護市公共

交通基本計画を策定し調査報告書をまとめたところであり、今後これに基づいて取り組んでまいります。

四、行財政改革について

質問(1)サービスの質向上とコスト削減を図る目的で進めている指定管理者制度の導入の成果と今後の計画についてお伺いします。

答弁 制度への移行が浅く、成果としての評価には、もう少し時間が必要と考えます。今後、「名護市公の施設の管理に関する検討委員会」において法制度の趣旨を踏まえ、導入を図っていく予定です。

質問(2)行政のムダを省くために民間の専門家による視点を導入し、行政の仕事として本当に必要かどうかを洗い直し、「不要」「民間委託」「他の行政機関の事業」「引き続きやるべき事業」に仕分けする「事業仕分け」についての見解をお伺いします。

答弁 ISO9001の施策事務事業評価の中で事務事業を市職員が「継続・見直し・廃止」の事業仕分けに区分し、検討し、見直していくシステムを導入しております。なお、民間の専門家等の意見を聴取する形での事務事業評価については現在行っておりませんが、これにつきましては今後の検討課題にしたいと考えております。

五、交流事業について

質問(1)平成15年に続いて今年平成18年5月に2度目の沖繩開催が決定しました。パラオ、ツバル、フィジー、オーストラリアなどの南太平洋15カ国・地域から各国首脳をはじめ、政府関係者が環境問題などについて会議する第4回「太平洋・島サミット」が、我が名護市の万国津梁館を中心に開催されます。その取り組みについてお伺いします。

答弁 5月26、27日に第4回日本太平洋諸島フォーラム首脳会議が開催されます。去る2月20日に外務省のアジア太平洋州局浅利課長が私ども市長を表敬されまして、開催についての協力の要請がありました。外務省の調整ができれば、可能な限り私たちも協力していきたいと考えております。

ヨシヒデの実績

- 市営駐車場(城・港)の利用料金の改正により低料金化を実現
- DPT予防接種の無料化
- 3歳児未満医療費・5歳児未満入院費無料化を実現
- 病後児保育(乳幼児健康支援一時預かり事業)の設置を推進
- 児童手当を小学6年生修了前まで拡充。所得制限も大幅に緩和
- 白銀橋(西)交差点改良事業で交通安全対策を推進
- 乳がんの早期発見のためにマンモグラフィを導入
- 高齢者・身障者などのバリアフリー化を推進
- 市役所西側駐車場に身障者用の駐車スペースを確保
- 農産物の生産性の向上や省力化、台風や鳥獣被害防止の施設整備を推進



大宮小・中学児童・生徒の通学路で白銀橋(西)交差点改良事業が施工中。待望の安全対策が進められています。2006年5月現在

やさしく、深く、面白く、役に立つ
政治を毎日わかりやすくお伝えする
公明新聞を読んでみませんか?
日刊(1ヶ月1,835円/税込)
激しく移り変わる社会・政治の動きを正確な報道で伝えてまいります。
お申し込みは 金城ヨシヒデ 0980-54-1259